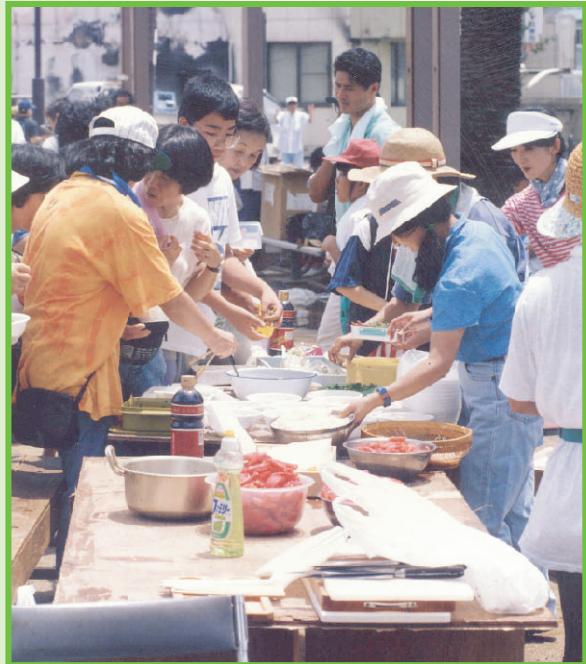


世界から神戸へ～多文化共生に向けて



神戸は、40万人とも言われる移住者を海外に送り出しましたが、同時に、世界諸地域からさまざまな事情で移住してきた在住外国人の多い街としても知られています。1868年の開港以来、神戸の街のさまざまな産業や文化、国際交流は、こういった外国にルーツをもつ人々により支えられてきました。

1995年1月17日、この地域が阪神・淡路大震災に見舞われた時、「情報弱者」となった日本語の不自由な被災外国人を支援しようと、震災直後から迅速な支援活動が始まりました。また一部の外国人学校は、駆け込んだ近隣住民に校舎を開放し、食事を振る舞いました。震災後、外国人支援活動を恒久化・発展させるために、数多くのNGOが誕生しましたが、今やこれらのNGOは、全国モデルとなっています。



震災直後には被災者に対する炊き出しも行われました。

あの震災から15年以上の歳月が流れた今日。震災をきっかけに誕生した活動はさらに輪を広げ、日々発展しています。しかし一方で、多文化共生をめぐって数々の課題が残されていることも事実です。

この部屋の展示は、「**多文化共生**」の常設展であることと、今後の課題にまで踏み込んで解説している点で、全国的に非常にめずらしい展示です。



全焼したカトリックたかとり教会。現在では、多文化共生関連のNPO活動の拠点にもなっています。

このように、震災時には国籍や文化の壁を超えた助け合いが各地域で見られ、それを契機に「**多文化共生**」という言葉が全国に広りました。「**多文化共生**」とは、さまざまな文化背景をもつ人々が、対等で調和的な関係を築き、互いの文化の違いを尊重しながら、社会の一員として共に生きることを意味します。

もし自分が悪いのに、がまんしていませんか？
からだのいいかげないのに、がまんしていませんか？

病院で通訳をためます！
びょういんでつうやくをためます！

You are not well... shouldn't you be doing something about it?
You can request the services of an **Interpreter** at the hospital!
당신은 건강하지 않으므로 찾지 않습니까? 병원에 통역을 요청합시다!

Bạn đang có gắng chịu đựng cho dù cơ thể không khỏe?
Nếu Bạn muốn, thông dịch sẽ đến bệnh viện để giúp Bạn.

¡Estás esforzándote por soportar el malestar a pesar de sentirte mal?
¡Podrá solicitar **Intérprete** para la consulta médica!

Anda taando forja para agüantar el malestar, apesar de sentirse estúido doent?
É possível pedir um **intérprete** para as consultas no hospital!

Hugikila ba kaya kung mayroon man kayong karamdaman?
Anda morata tidak sehat, mengapa Anda tidak mau berobat?

Sa oras ng pagpapaggamot, mayroong mga tagapag-tanggawa sa mga ospital.
Anda bisa meninta jasa **penerjemah** untuk menemani Anda berobat di rumah sakit.

هل حفظك سيدة ولا تستطيع الاحتفظ؟
يمكننا أن نوفر لك ترجمة في المستشفى لثناء الشخص الطبي.

『兵庫県医療通訳システム構築モデル事例』
多言語センター FACIL 挑戦：兵庫県・兵庫県医療委託協定・神戸市



神戸の多文化共生…ここが知りたい!



Q

1923年の関東大震災が発生した時は、多数の朝鮮人や中国人らが虐殺されましたが、なぜ1995年の阪神大震災の時は、それと対照的に、「国籍の壁を越えた助け合い」が見られたのでしょうか?

A

あの困難な時に人々が見せた互いへの「助け合い」「思いやり」。それは神戸の人たちにとって、震災という悲しい記憶を抱えながらも、大きな誇りとなっています。一世紀半近くにわたって多様性とともに栄えてきた街。加えて神戸には、在住外国人支援活動や国際交流に携わる人材が、元来豊富です。さらに歴史的に生じた数多くの差別事件に対する反省に立ち、人権や同和教育への取り組みも積極的に進められてきました。こうした地域的特色と地道な活動の積み重ねが、震災の時、国籍の壁を超えることを可能にしたのかもしれません。

Q

「多文化共生」という言葉は、阪神・淡路大震災の時に生まれたのですか?

A

いいえ、この言葉は、1993年に神奈川県で最初に使われたようです。ただ、当時はごく一部の人にしか知られていませんでした。全国的に広まったのは、ボランティア元年といわれる1995年の阪神・淡路大震災がきっかけだといわれています。様々な被災外国人支援活動とその後誕生した数多く関連NGOの活動を通してのことです。その後、互いの文化的違いを認めつつ、ともに生きるという、一種の啓蒙的スローガンとしての役割を果たしてきました。

Q

今でも外国人に対する差別が後を絶たないとのことですが、それではなぜ日本に長く住んでいるのに、帰化しないのでしょうか?

A

在住外国人に対する様々な制度的障壁を避けるために、日本へ帰化する人も数多くいます。しかし一方で現在も帰化しない外国人が多いのは、国籍が多くの人にとって自らの民族の誇りの一部であるからです。生きるための有利さ・便利さをとるか、自らの誇りを大切に守るか、帰化の問題は、しばしばこうしたジレンマを伴います。しかし自らの国籍は維持しても、神戸市民や兵庫県民といった地域住民として高い誇りを抱いている在住外国人は多いのです。



展示監修・解説

京都大学人文科学研究所教授
竹沢泰子 先生

